

第40回 世界遺産検定 マイスター試験
講評 および 学習方法

1. 実施概要 2. 認定点と分布 3. 問題 4. 総評 5. 各問の短評と学習法

1. 実施概要

検定日：2020年7月5日（日）
検定会場：東京・名古屋・大阪
検定時間：120分
解答形式：論述形式（記述）
申込人数：25名
受検人数：20名
認定者数：11名（認定率55.0%）

2. 認定点

認定点：12点（20点満点）
最高点：16.0点
最低点：5.5点

3. 問題

① 次の語句を簡潔に説明しなさい。

1. 危機遺産
2. 登録基準（vii）
3. 「5つのC」

② 世界遺産条約について、次の語句をすべて使って、400字以内で説明しなさい。なお、解答中の次の語句の使用箇所には下線を引きなさい。

顕著な普遍的価値 世界遺産基金
教育事業計画 社会生活の中での機能・役割

③ 世界規模の新型コロナウイルスの拡大は、人々の生活や経済活動だけではなく、世界遺産の保護の観点でも大きな影響を及ぼしている。新型コロナウイルスの拡大が世界遺産の保護・保全に与えた影響について具体的な事例を取り上げると共に、今後の世界遺産の保護・保全のあり方について考えられることを、1,200字以内で論じなさい。

4. 総評

今回は新型コロナウイルスの影響のためか受検者数が少なかったが、全体としてのレベルは高かったように感じた。今回のこれまでと異なる傾向としては、①と②で認定点ぎりぎりだった受検者が、③で高い得点を取っていたことが多かったことだ。③はこれまでの問題に比べて、現在我々が直面する書きやすいテーマであったこととも関係すると考えられる。一方で、書きやすいテーマであるが故に、世界遺産とは関係のない話題や、自分の意見がほとんど含まれない解答も多くあり、そうした解答は減点せざるを得なかった。マイスターの試験では、客観的な事実に基づき「自分の考え」を述べることが重要である。その点を受検者は再認識すべきであると感じた。また、少数ではあったが改行や段落の頭下げなどを行っていない解答も例年に引き続きあり、文章としての基本的なルールも意識しながら書く必要がある。

5. 各問の短評と学習法

1

短評：それぞれの語句を約 50 文字以内で説明する問題。「危機遺産」では人間の関与により危機状態の改善が可能なことや、登録基準が作業指針で定められていることなどが書かれていると点数が高くなった。登録基準のところは点数が取りやすいので、作業指針内の内容が過不足なく含まれていると点数が高くなった。

学習法：このように少ない文字数で要約する場合、ポイントとなる語句をはずさないようにする。間違っていないが本質ではない点をいくら並べても説明としては不十分なので、学習の際には、それぞれの語句の最重要ポイントがどこであるかを考えながら、キーワードを正しくつかむことが重要である。

2

短評：指定語句を用いて世界遺産条約を説明する問題。基本的な問題文は毎回同じであるため、対策が立てやすい問題だと言える。しかし、未だに「世界遺産条約」ではなく「世界遺産」について説明している解答が見られた。これは似ているが全く異なることを認識しなければならない。また世界遺産条約の説明で、無形文化遺産条約などの「世界遺産条約以外」の視点を加えて説明できるほどの文字数的な余裕はないため、指定語句を中心に肉付けして文章をまとめなければならない。指定語句は書いてあればよいというものではなく、指定語句が世界遺産条約にとってどのような位置づけにあるのか説明できているものは点数が高くなった。

学習法：書く前に必ず**全体のプロット**を作る必要がある。「世界遺産条約」を説明するのに必要なキーワードを書き出し、組み替えながら全体のプロットを考える。問題中の使用指定語句は、どのような解答が求められているかのヒントである。

学習の段階では、重要語句のキーワードやポイントを抜き出しておくことよい。世界遺産条約の意義や目的、採択の背景なども理解し、それを限られた文字数と指定語句の中に加えられるよう、自分なりのまとめなおしが必要である。そのため、**文章ではなく語句で覚えておき**、問題に合わせて語句を組み合わせるようになるのが重要である。また指定文字数の 8 割を書かないと減点の対象となる。

3

短評：世界遺産に関するテーマについて、独自の意見を論理的に論ずる問題。今回は世界的に大流行している新型コロナウイルスが世界遺産の保護・保全に与えている影響や今後の課題について論じる問題であった。総論にも書いた通り、身近なテーマであったため全体的にはよく書けていたが、自分の考えが含まれていないものも少なくなく、点数に差が出ていた。今回は受検者の中に様々な論点があり興味深かった。観光の視点や保護・保全費用の確保の視点などが多い中、AI などを用いたウイルスに影響を受けない保護・保全体制の確立など、独自の視点が示された解答には高い点が与えられた。

学習法：1,200 字というかなり長い論述問題の場合は、書き始める前に必ず**全体のプロット**を作る必要がある。その時に、**序論・本論・結論のスタイル**にするのか、まず**結論**を書いてから**後で説明するスタイル**にするのか決め、全体を見ながら、それに沿うようにキーワードなどの箇条書きでプロットを作る。それに肉付けする形で、書き上げてゆく。世界遺産条約から大きく外れた出題はないので、ある程度共通して使える要素も準備しておくことよい。論述問題では「**正解**」というものはない。いかに自分の意見を論理的に述べられるかが高得点の鍵となる。当然、**自分の考えを述べる時には、思い込みではない正確な情報で根拠を示す必要がある**。文字数指定があるので、最低でもその 8 割は必ず書くようにする。